

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
2012年度 JASSO ショートビジット派遣報告書

報告者氏名 野口 真理子

平成20年度(入学・編入)

1.研究課題：

アフリカ農村社会におけるエイジング：エチオピア西南部居住高齢者の生活実践と社会関係

2. 渡航先：エチオピア

現地滞在期間：平成 24年 8月 1日 ～ 24年 9月 18日 (49 日間)

3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

今回の派遣において申請者が目的としたのは、これまで続けてきた調査において、個人それぞれの老いと日常生活を追跡することと、個人だけでなく様々なアクター、例えば地区の共同労働組織や村役場、病院、教会、行政組織、そして国家が高齢者ケアの中にどのように関与しているか、ということを追加調査項目として進めることであった。今回の派遣によって、新たな互助組織が作られていたことが明らかになった。その新たな相互扶助組織とは、トウモロコシなどの穀類の改良種の普及と社会保障を結びつけたような組織で、これまで地域に存在した互助組織とはまた別物である。毎週の掛け金に加え、貸金を行い利子で元本を膨らませながら、構成員やその家族が病気などの有事にはその資金を使うことができる、というものである。

また、今回の派遣滞在中に調査地近辺で二輪車後部座席乗車中に交通事故に遭った。特に外傷は無かったものの、事故時に脳しんとうをおこしたため、精密検査のため滞在期間を約2週間程早め帰国した。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や長期的な展望について述べてください

本研究は現在急速に社会問題化する可能性のあるテーマであるため、今後も定期的に本調査地における変化を追っていく必要があるだろう。特に高地の農村地域は就学などを目的に若者や子どもは都市へと流れていっていると同時に、現在農業を生業とする中年世代にも、自宅以外に近隣地方都市に別の住居を建設するという動きがあり、急速に過疎化が進行しつつあるといえる。

また、本研究は、避けては通れない制度的課題に関して十分な検討ができていない。本調査地においても軍隊に入隊し、一定期間働いたのちに現在すでに年金をもらっている人が出始めているという。既に高齢社会を迎え様々な問題に直面している我が国の一研究者として、地域のケアに寄り添う形での制度のありかたについても考えていかななくてはならないだろう。

5. 本プログラムに参加した感想や、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいか、希望をお聞かせください

もし長期間滞在することが可能な留学プログラムがあれば、今後も是非参加させていただきたいと思います。

*1 ページを超えないようにしてください。

* **プリントアウトして、署名を記入の上、提出してください。**

署名